

日本サモア 両国に拍手

ホテル、バーで観戦



サモアの国旗を身にまとい、両チームに声援を送る大塚さん(右)(5日、新宿区で)

海外協力隊OBら熱狂

ラグビー・ワールドカップ(W杯)で、日本代表は5日の試合でサモア代表を破り、悲願の8強入りへまた一歩前進した。都内のホテルやスポーツバーでは、サモアにゆかりがある人たちが集まり、大型テレビなどで観戦。激しい攻防の連続に歓声が何度も上がり、ノースサイドの瞬間には両チームに惜しめない拍手が送られた。



「どっちも頑張ってる!」
5日夜、新宿区にあるスポーツバーでは、かつてサモアに技術支援などに赴いた青年海外協力隊のOBら約30人が大型スクリーンでこの一戦を見つめ、チ

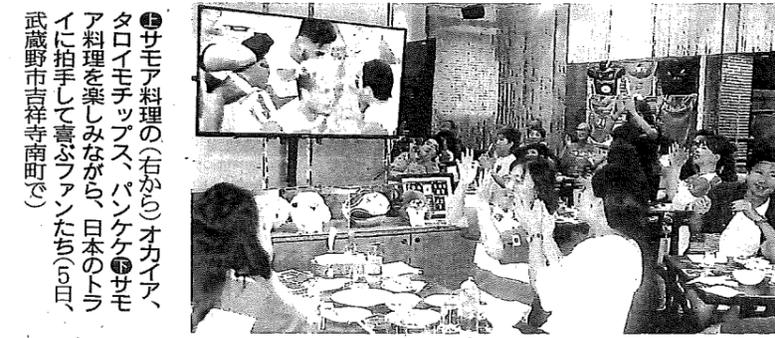
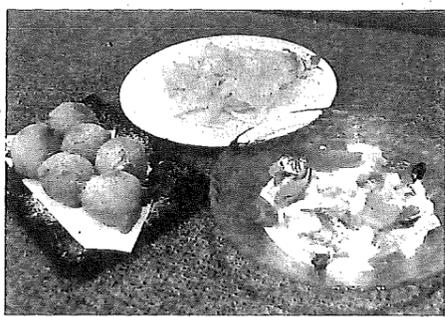
ヤンスのたびに盛り上がった。その中の一人、大塚一雄さん(57)(北区)は20代だった1989年から2年間、システムエンジニアとしてサモアの銀行のシステム開発にあたった。仕事に励む傍ら、現地の人たちと触れ合い、ラグビーに抱く愛や情熱を強く印象づけた。

日本と同じく太平洋に浮かぶ島国で、人口約20万人のサモア。大塚さんは、街のあちこちで子どもたちが集まり、楕円球を追っていたのを記憶している。「マヌ・サモア(サモアの獣たち)」の愛称で呼ばれる同国代表は子どもたちの憧れで、代表が勝つと車同士がクラクションを鳴らし合

い、お祭りの騒ぎになったという。大塚さんもサモア人の知人に誘われ、日本とサモアのユースチームの試合を観戦し、大男たちがぶつかり合う迫力に魅せられた。ただ、この時の日本は相手へのタックルを怖がっているように見え、サモアの選手に独走トライを許すなど大敗。大塚さんは周囲のサモア人から「サ

相手国料理にトライ

吉祥寺ファンら舌鼓 武蔵野市の「吉祥寺東急R E Iホテル」では、ラグビーファンら約65人が、サモア料理を食べたり、地元ラグビーチームの選手の解説を聞いたりしながら試合を見つめた。会場では、野菜や魚をココナツミルクとあえたマリネ「オカイア」や、サモア風のパンケーキ「パンケケ」、タロイモチップスを提供。試合が始まると、国内トップリーグ下部・トップイーストの「横河武蔵野アトラスターズ」や女子チーム「横河武蔵野アルテミススターズ」の選手5人がルールなどを解説した。会場には友人同士や家族連れなどが訪れ、料理に舌鼓。



●サモア料理の(右から)オカイア、タロイモチップス、パンケケ●サモア料理を楽しみながら、日本のトライに拍手して喜ぶファンたち(5日、武蔵野市吉祥寺南町で)

最後のプレーでトライが決まると、ファンらはハイタッチで喜び合った。友人2人と訪れた三鷹市の公務員富岡紀子さん(46)は「日本の最後のトライは興奮で手が震えた。スコットランドに勝って決勝トーナメントに行きたい」と話した。

中学英語弁論 都代表に5人

高円宮杯第71回全日本中学校英語弁論大会の都予選(読売新聞社、日本学生協会基金主催、東進ハイスクール特別協賛)が5日、赤坂区民ホール(港区赤坂)であり、都代表5人が決まった。大会には64人が参加し、日頃の練習成果を披露した。都代表の5人は、11月27日に同ホールで行われる関東地区予選に出場し、勝ち

抜けば同月29日、よみうりホール(千代田区有楽町)で開かれる決勝大会に進出する。都代表の5人は次の通り(敬称略)。
▽佐々木美瑠(東京女子館中3年)▽國吉せいの(東京学芸大学付属世田谷中3年)▽鈴木佑月花(豊島岡女子学園中3年)▽立花修花(都立桜修校2年)▽松心女子学院中

都民

本社 江東
立川 武蔵野

都内版編集室 〒100-8055
千代田区大手町1の7の1
読売新聞東京本社内
電話 03(3217)1465・1466
FAX 03(3217)1468
tomin@yomiuri.com
江東支局 電話03(3631)6116
武蔵野支局 電話0422(51)3131
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81

【広告】読売エージェンシー 03(5226)9925
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

10月7日(月曜日)
旧 9月9日<大安>

通日 280
月給 8.4
(正午)
日出 5.40
日入 17.18
日日出 13.59
月入
=東京標準=
満潮 14.05
22.34
干潮 5.38
18.55
(小潮)



都代表に選ばれた(左から)佐々木さん、國吉さん、鈴木さん、高橋さん、松井さん

100人に席を楽しむ 寄話芸 中央区・読売IS



人気落語家を招いた「読売あいえす寄席」が5日、中央区日本橋人形町の読売IS本社で開かれ、約100人が話芸を楽しんだ。同本社ビルの敷地には、江戸時代末期から1970年まで、寄席定席「人形町末広」があった。落語を通じて文化振興や地域貢献を目的に、同社が2011年から毎年開催している。この日は、桂歌春さんが

「加賀の千代を、林家花さを披露。客席笑い声が上が

米大統領 展望、影

女子学園中3年花(都立桜修校2年)▽松心女子学院中



バラと洋館 美の共演 北区・旧古河庭園